

## 「省エネ市民会議」

会議年月日	26年12月5日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(3F)
-------	----------	----	---------------	----	-----------------

出席者	大前、加藤、難波、松浦、新田、石垣、新美、春田(記)、平手、山田、カワマタ (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)
-----	---

### 議 題

12月度「省エネ市民会議」を開催した。

#### 1、本日の話題(新聞から)

「2014年の世界平均気温が史上最高可能性 国連」、「COP20事務局長が日本に注文」

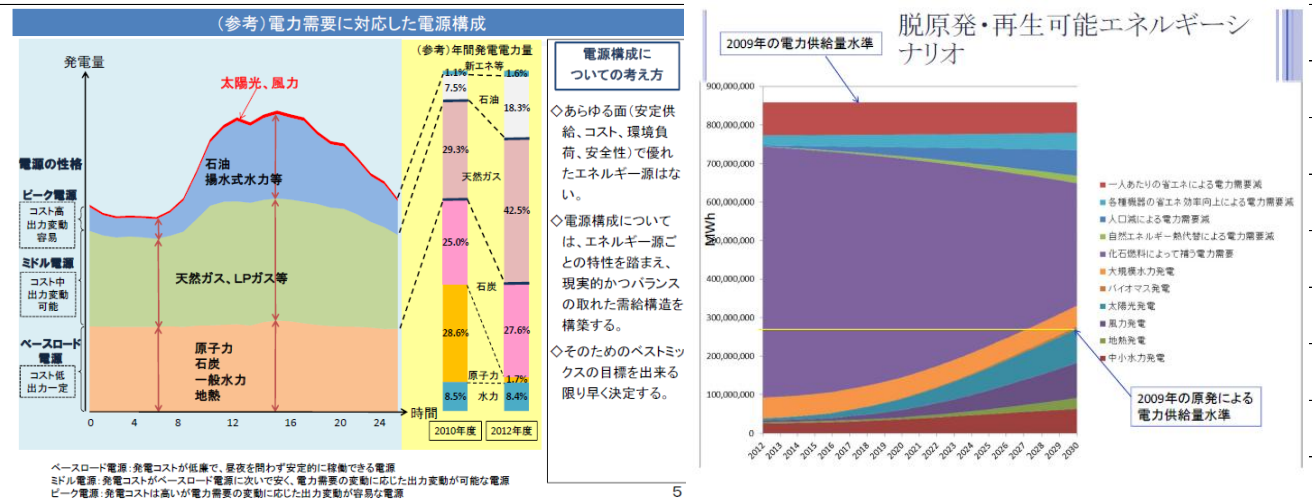
「省エネ市民会議」家庭省エネ官民会議、「省エネ市民会議が京和ガス交付金の対象に」

#### 2、第4次エネルギー基本計画について

エネルギー基本計画は、約3年ごとに発表されている。

2010年6月「第3次エネルギー基本計画」(原発は重要)、2012年9月「革新的エネルギー環境戦略」(脱原発)

2014年4月「第4次エネルギー基本計画」(原発はベース電源として重要)



(経産省:第4次エネルギー基本計画より)

(倉阪先生:2020年代のエネルギー供給を考える)

#### 3、2020年代のエネルギー供給を考える(倉阪先生の資料)

##### 電力需要抑制の可能性

- ・人口減少に伴う需要抑制(人口は、2009年比で、2030年に92.1%、2040年に85.7%に減少)
- ・一人あたりの節電の定着による需要抑制(節電率10%が定着すると仮定)
- ・照明や動力の効率向上による需要抑制(年平均3%ずつ効率が向上すると仮定)
- ・再生可能エネルギー熱による電力代替(ペレットストーブ、ペレットボイラー、太陽熱温水器、ソーラーシステムなどによって電力を代替。2030年に2009年比で、75.7%に電力需要を抑制できると仮定)

##### 今後のシナリオ(化石燃料有効利用から再生可能エネルギー基盤へ)

- ・省エネ努力を怠らず、省エネを進める。
- ・熱を有効に活用できるまちづくりを進める
- ・15年から20年で再生可能エネルギーを基幹的エネルギー源に

次回は、平成27年1月9日(金)13:30~15:30 流山市生涯学習センター(大会議室) テーマ未定。

# 平成26年12月度「省エネ市民会議」”エネルギー供給について考える”



- ・日本の文化を大事にしながら省エネ住宅を考え、住まい方(ライフスタイル)も考える必要がある。
- ・省エネリフォームの補助金制度をもっとPRする必要があるのではないか。そのことで住まいの省エネ化が計れる。
- ・電気の使い方、ガス(熱)の使い方をもっとPRする必要があるのでは。ガスもKW表示にしたら分かりやすい。
- ・省エネに無関心の人に感心を持たせる必要がある。(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 宗像慎太郎氏)



家庭のエネルギー消費量を的確に把握する必要がある。



県内の環境家計簿を調べて見ると……。

iPAGE 気候変動に関する国際交渉

## COP20 各国の方針は？

-  2025年までに05年との比較で26%~28%削減  
アメリカ
-  2030年頃までに排出量をピークにする  
中国
-  2030年までに排出量を1990年との比較で40%削減  
EU
-  エネルギー源の構成が決まっておらず、具体的な数値目標を出せない状況  
日本

COP20が1日~12日まで南米ペルーで開催されている。

先進国と発展途上国との間で温暖化対策を果たす責任にどのような差をつけるかを巡って対立を解消していけるかが焦点となっている。

日本は、COP19で「2005年度比3.8%減」という2020年までの削減目標を発表した。

日本は、COP21に向け2020年以降の削減目標案を早期に提出する必要がある。

「すべての国が参加する公平かつ実効性のある目標値」を、どのように設定するかが課題となっている。